

算命学中庸

【初年】 63 回目

63 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【天中殺の心得】 (1)

【初年】 63 回目【天中殺の心得 (1)】 01

1 大運天中殺

2 年運天中殺

3 月運天中殺

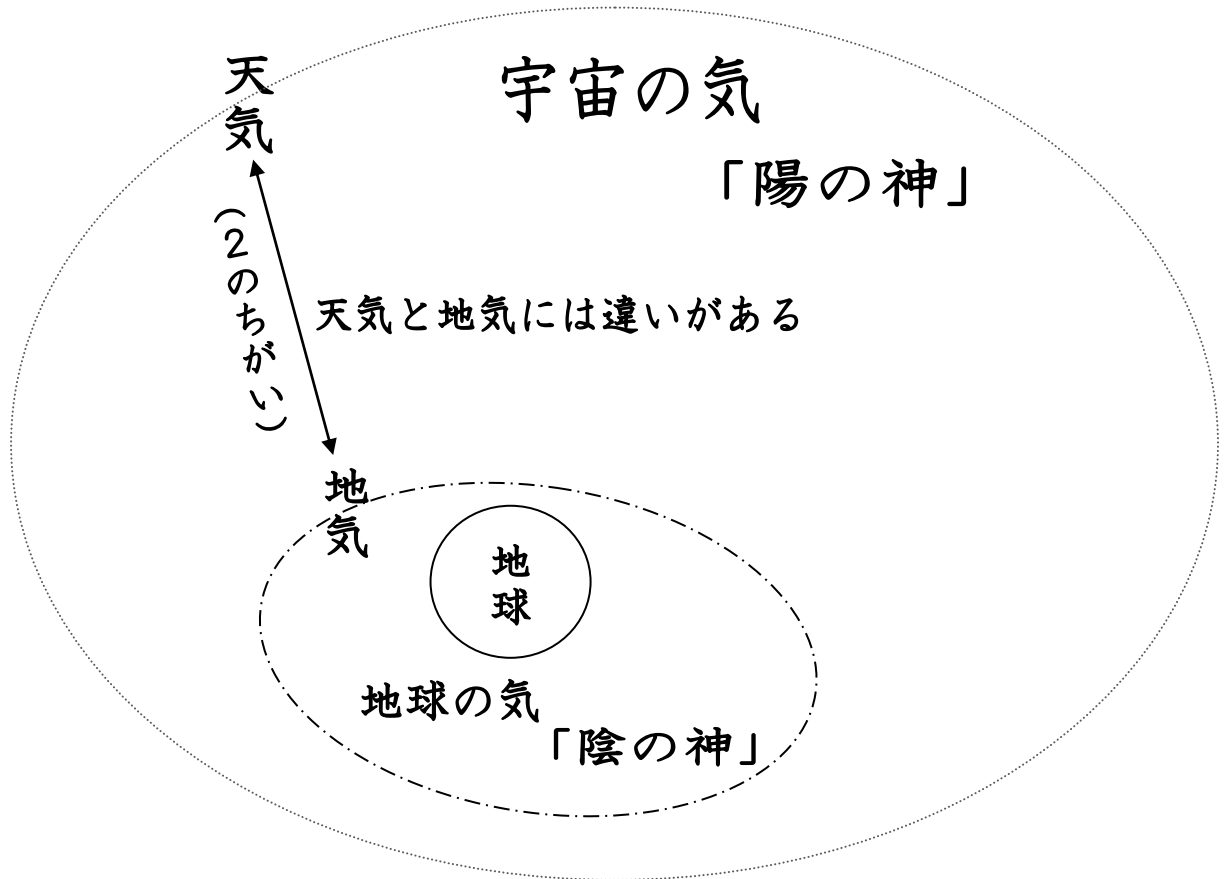
4 日運天中殺

算命学は、常に宇宙と地球を対比して考えます。

宇宙には宇宙の気「天気」があり、地球には地球の気「地気」があると考えています。

てんき ちき
天気と地気には違いがあり、それが天中殺であると位置づけています。 参照⇒62 回目【宿命と健康】 04

天気と地気には違いがあり、その違いが天中殺です。



天中殺の成り立ちには逸話があります。

宇宙の気を「陽の神」陽の自然としたのです。

地球の気を「陰の神」陰の自然としたのです。

算命学では、宇宙の気ようしん「陽神」を統合して「天気」と称し、地球の気いんしん「陰神」統合して「地気」と称してはいますが、宇宙空間に地球が誕生したときから、天気と地気の違いが出てきたとしています。

これは、陽神^{ようしん}と陰神^{いんしん}の考え方の違いとしています。
この考え方の違いの部分が「天中殺」に相当します。

参考・統合〔天は宇宙の千種万類を創造したのみに非ず創造の後
常に之を統合し〕 秦西勸善訓蒙（第二偏・敬天の道・第二章）

その違いのとは……。

「陽神」の考え方は……宇宙を構成しているのは、
10種類の「気」であり、それらが集まって造られた
とといいます。

「陰神」の考え方は……宇宙を構成しているのは、
12種類の「気」であり、それらが集まって造られた
とといいます。

そこには10と12の違いがあります。

このように、陽神の考えていることと、陰神の考え
ていることに齟齬^{そご}が生じました。
この齟齬の部分が天中殺であるとしています。

陽神と陰神の考え方の違いに「ひずみ」があり、そ
のひずみ（ゆがみ）が天中殺になります。

☞ 現実として……地球上には、人間を含めて生物が誕生しています。

万物は生者必滅しょうじゃひつめつであり、諸行無常しよぎようむじょうゆえに、植物であれば、種を残存して子孫は生き永らえさせます。

人間も生者必滅であり、諸行無常です。本人の肉体は、朽ち果てても、魂たましいは永遠不滅の存在なのです。中庸学（人間は意志と知性をもち、子孫を残さない人もおられます。子孫を残さずに、本人の肉体は朽ち果てようとも、本人の靈魂は永遠不滅の存在なのです。）

参考・生者必滅〔すべて無常で、生命あるものは必ず死滅する〕

参考・諸行無常〔大宇宙は瞬またたく間まにも変化変滅を繰り返して、常なき姿です。生あるものは止まることを知らず変化しつつ、動いています。そこに生者必滅の姿はあっても、靈魂の永遠性は、他たによって損なわれることのない不動の存在の意〕

☞ さて、地球上のどんな生物でも必ず死にます。永久に生きる生物は地球上に存在しません。

生と死は『動どう』であり、生きるということと、死ぬということは、表裏ひょうりの姿であると考えています。

生死は動
生 —————→ 死

算命学は、生物が生まれるということに対して……

「天気」と「地気」の融合が必要になると考えています。

そこで、天気と地気がお互いの妥協点を見つけようということになりました。

そうしますと、天気が10で、地気が12ですから、計算が合わないのです。

「陽神」 10が6 $\Rightarrow 10 \times 6 = 60$

「陰神」 12が5 $\Rightarrow 12 \times 5 = 60$

しかしこのように、お互いに60が生まれます。

10「天気=十干」と12「地気=十二支」の妥協点は、60という数字です。

そこで「陽神」と「陰神」は、この60を地球上の
こよみ
暦の原点と決めたわけです。

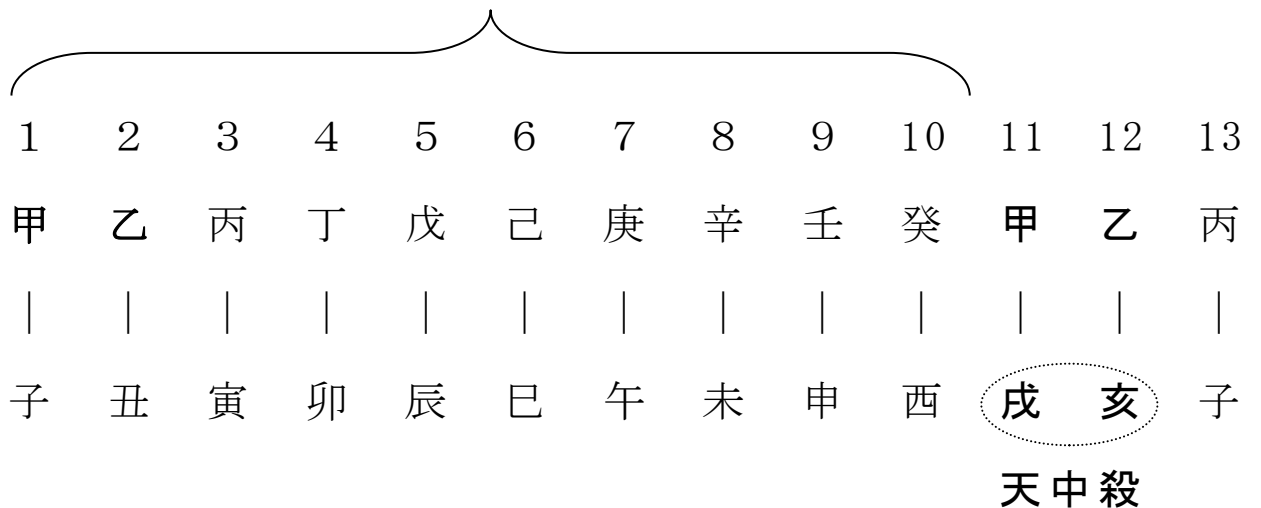
参考・妥協点 [お互いに歩み寄って一致できるところ]

天中殺表

| | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 甲寅 51 | 甲辰 41 | 甲午 31 | 甲申 21 | 甲戌 11 | 甲子 1 |
| 乙卯 52 | 乙巳 42 | 乙未 32 | 乙酉 22 | 乙亥 12 | 乙丑 2 |
| 丙辰 53 | 丙午 43 | 丙申 33 | 丙戌 23 | 丙子 13 | 丙寅 3 |
| 丁巳 54 | 丁未 44 | 丁酉 34 | 丁亥 24 | 丁丑 14 | 丁卯 4 |
| 戊午 55 | 戊申 45 | 戊戌 35 | 戊子 25 | 戊寅 15 | 戊辰 5 |
| 己未 56 | 己酉 46 | 己亥 36 | 己丑 26 | 己卯 16 | 己巳 6 |
| 庚申 57 | 庚戌 47 | 庚子 37 | 庚寅 27 | 庚辰 17 | 庚午 7 |
| 辛酉 58 | 辛亥 48 | 辛丑 38 | 辛卯 28 | 辛巳 18 | 辛未 8 |
| 壬戌 59 | 壬子 49 | 壬寅 39 | 壬辰 29 | 壬午 19 | 壬申 9 |
| 癸亥 60 | 癸丑 50 | 癸卯 40 | 癸巳 30 | 癸未 20 | 癸酉 10 |
| 子丑 | 寅卯 | 辰巳 | 午未 | 申酉 | 戌亥 |
| 12・1 | 2・3 | 4・5 | 6・7 | 8・9 | 10・11 |

参照【初年】 55 回目 【天中殺論①】 16

自然な結びつき（自然融合）



天中殺範囲（不自然融合・はずみ）

天中殺範囲は余った十二支 **戌亥** のところでは。

「陽神」 $\boxed{10}$ が 6 $\Rightarrow 10 \times \boxed{6} = 60$

「陰神」 $\boxed{12}$ が 5 $\Rightarrow 12 \times \boxed{5} = 60$

$\boxed{10}$ と $\boxed{12}$ そして $\boxed{5}$ と $\boxed{6}$ の合わない部分に妥協点を見いだしたわけです。しかし“^{ひず}歪み”が^{しょう}生じました。その歪み・妥協点を天中殺と名称したのです。天中殺を自動車のハンドルの遊びと考えることもできます。安全なハンドル操作には不可欠といえるでしょう。

^{ひず}
歪み・妥協点 \Rightarrow 天中殺

地球上に生まれるすべての生物は、妥協点をもって生まれていると考えています。

それら地球上の生物で、五行（木火土金水）を備えているのは人間だけです。

そして、人間とほかの動物を比較して、最大の違いは「類を見ない知恵がある」ということです。

人間がもっている知恵と、おなじ段階の知恵をほかの動物はもっていません。

それゆえに、天中殺は人間にしかつかえないのです。

参考・妥協点 [双方が互いに歩み寄って一致できるところ]

「陽神」の宇宙の気（天気）は10種類です。
宇宙を分類してできたのが「十干」です。

「陰神」の地球の気（地気）は12種類です。
地球の時間を分類したものが（十二支）です。

地球の時間を大きく分ければ、4季節の春夏秋冬です。それぞれの季節の中心は（春分）（夏至）（秋分）（冬至）です。

春夏秋冬の各季節をそれぞれ三等分すると12になり、その一つがヶ月の原理です。

その各月につけた符合が十二支の（子～亥）です。

お互いの妥協点を理解して、十干と十二支が結合して、60の干支「六十干支」ができたのです。
それゆえに、六十干支は地球上でしか通用しません。

天文学でつかう時間の基準も、全て地球上のもので
す。「1光年」は、1秒間に30万キロの速さで進む
光が、1年かけて進む距離です。

その光年をキロメートルで表すと、1年間で約9兆
4千6百億キロメートル進むのだそうです。

地球と月との間の距離は、38万4千キロメートルですから、光の速度で走る乗り物があるとすれば、わずか1,3秒で月に到着することになります。

ちなみに、地球上から観測できる一番遠くの天体は光の速さで130億年かかるそうです。

つまり、その天体からの光は、130億年前に放たれたということです。私たちは130億年前に放たれた光を目にするわけです。

この「光年」という光の速度も地球上の単位であり、地球中心の単位ということです。

それは人間が地球上で観測した単位なわけです。

もし、ほかの天体に、人間のような生物がいれば、まったく違った単位を基準にするでしょう。

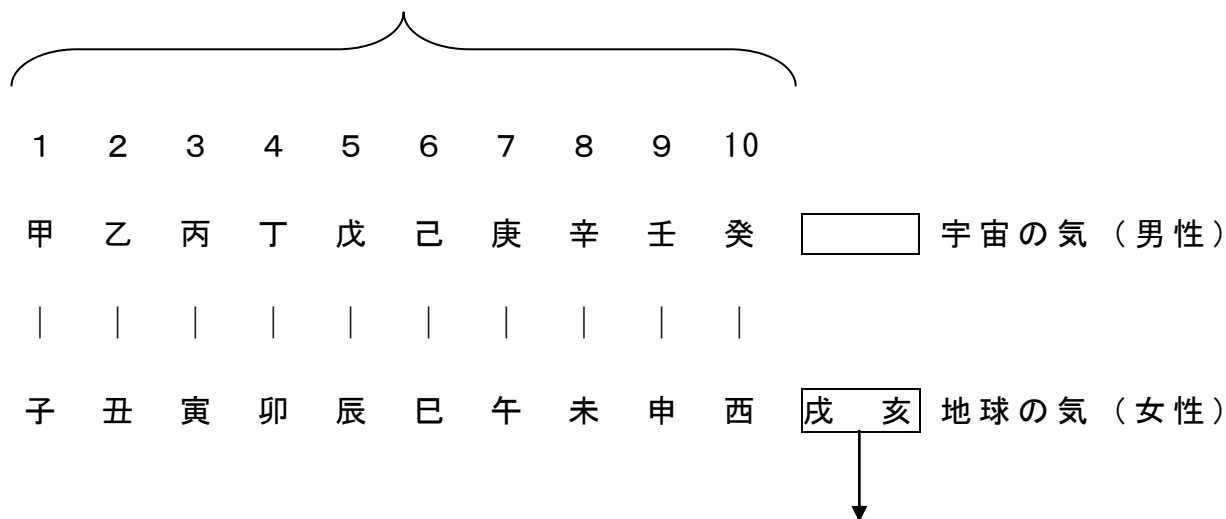
その意味でも、六十干支は地球上でしか通用しないのです。

六十干支の話にもどります ➡

十干は甲木～癸水までの10種類があります。

十二支は（子～亥）までの12種類があります。

自然な結びつき〔自然融合〕



天中殺範囲〔不自然融合／ひずみ〕天中殺

このグループの組み合わせでは、空間を得ることができません。

〔たとえば〕どちらが男性で、どちらが女性でもよいのですが、算命学は男を（陽）、女を（陰）と定めていますから、それに則して考えますと、陽神が10に対して、陰神が12です。

〔たとえば〕陽神の宇宙の気と、陰神の地球の気が結ばれて、結婚するとなれば、陰神の ☐ 戌 と ☐ 亥 の2人は相手がいませんから、結婚できない人物とい

うことになります。

結婚できない2人は、不自然融合のグループになるわけでは

「甲～癸」までのグループは結婚できますから……
〔自然融合〕になるわけでは

天気と地気が融合して結婚できるグループは〔自然融合〕
です。

天気と地気が不融合で、結婚できない地気の**戌**と**亥**は、
〔不自然融合〕です。

この不自然融合の部分を「ひずみ」つまり「天中殺」と称しているのです。

十干は、このグループが6グループできます。

「陽神 $10 \times 6 = 60$ 」

十二支は、このグループが5グループできます。

（陰神 $12 \times 5 = 60$ ）

これらのことが、天中殺の原理になっています。

人間が生きてゆくには、不自然融合に打ち勝って、
生き抜いてゆくことにもなるわけでは

10 頁～11 頁でご説明しましたように、不自然融合の 戌 と 亥 のグループが存在します。

結婚ということで考えれば、まとまらない 2 人がいるわけです。（女性 2 人、男性 2 人、どちらにも当て嵌まります）

結婚できない 2 人は、どのように生きていけば良いのか……ということになります。

「陰神を男性」「陽神を女性」とすれば、このことは男性にも当て嵌まります。

これから述べるのは、結婚に限ったことではないのです。重ねて申し上げます。結婚に限らずです。

天中殺の年^{とし}に遭遇した人は「その期間をいかにして生きてゆけば良いのか……」という心得^{こころえ}です。

- ① 人生を達観する心境
- ② あせってもどうにもならないと考える心境
- ③ 自然のなすがままに任せるという心境
- ④ 全てを「受け身」で生きる心境
- ⑤ 世俗の欲を捨てる心境

参考・心得 [承知すべきこと]

参考・心境 [こころの状態]

参考・達観 [物事にとらわれなくて、喜怒哀楽を超越すること]

[細部にとらわれずに、何事にも動じないこと]

②と③は、④の「受け身」ということに、話は結びつきます。

「受け身」の反対は「積極的」になります。

「受け身で生きなさい」と「積極的に生きなさい」は、正反対のことです。

「受け身で生きなさい」というのは、天中殺のあいだの生き方ですから、“積極的に生きる”ことを、捨ててください。

それは「新しいことをしない」ということです。

このことに矛盾を感じる方もおられるでしょう。

それを [する] [しない] は、個人が選ぶことです。

算命学は、天中殺のあいだは「受け身で生きなさい」といいます。それは「積極的に生きるのは止めなさい」ということです。

〔たとえば〕誰かから「仕事を一緒にしよう」と、誘われたら受け身です。受け身ですが……その仕事をやれば、新しいことなのです。

このように、相反することが同時に起ります。

この場合には“新しいことをしない”ということが優先されます。

新しい物事というのは、自分の人生を変えるような大きなことです。その解釈は非常に難しいのですが、

〔結婚する〕〔家を建てる〕〔引越しをする（居住地を変える）〕〔出版をする〕などは、人生を変える事象と考えますから^{ひか}控えることです。

〔たとえば〕今まで、1回もサッカーを観たことがないのに、天中殺に入って、サッカーを観に行った。これは人生を変えるほどの大きなことではないので、その程度はよいのです。

天中殺（不自然融合）のあいだに、人生を変えるようなことを行なえば、天中殺が自分の人生にとって、マイナス作用をするだけのことです。

天中殺で新しいことをすると、天中殺の「気」が、そのまま、一生死ぬまでついて来ます。

天中殺で結婚して、天中殺で子供をつくりました。
天中殺で引っ越しをして、天中殺で仕事を変えたとなれば、禍わざわいを受けないはずはないのです。

その禍というのも、その人に直接くればいいですけど、自分の夫（妻）、子供、親など、その人たちにも与えてしまうということも起ります。

自分で禍を受けるようなことをやったのであれば、自分自身が禍わざわいを被かぶればよいのですが、そうはいかないのです。

そこが運勢の“からみ”でもあるのです。

つまり、運勢が関係し合うのです。

⇒ 四種類の天中殺について……。

1 大運天中殺（たいうんてんちゅうさつ）

算命学では、人間の寿命は〔120歳〕まで生きられるという考え方に起因しています。

誰もが〔120歳〕まで生きられるわけではないのですが、人間は〔120年間〕生きられると考えているのです。

人間の寿命〔120年間〕のなかに存在している〔20年間〕の天中殺を〔大運天中殺〕をいいます。

2 年運天中殺（ねんうん てんちゅうさつ）

12年のなかの2年間（十二支が1旬するなかの2年間）です。

3 月運天中殺（つきうんてんちゅうさつ）（げつうん）ともいう。

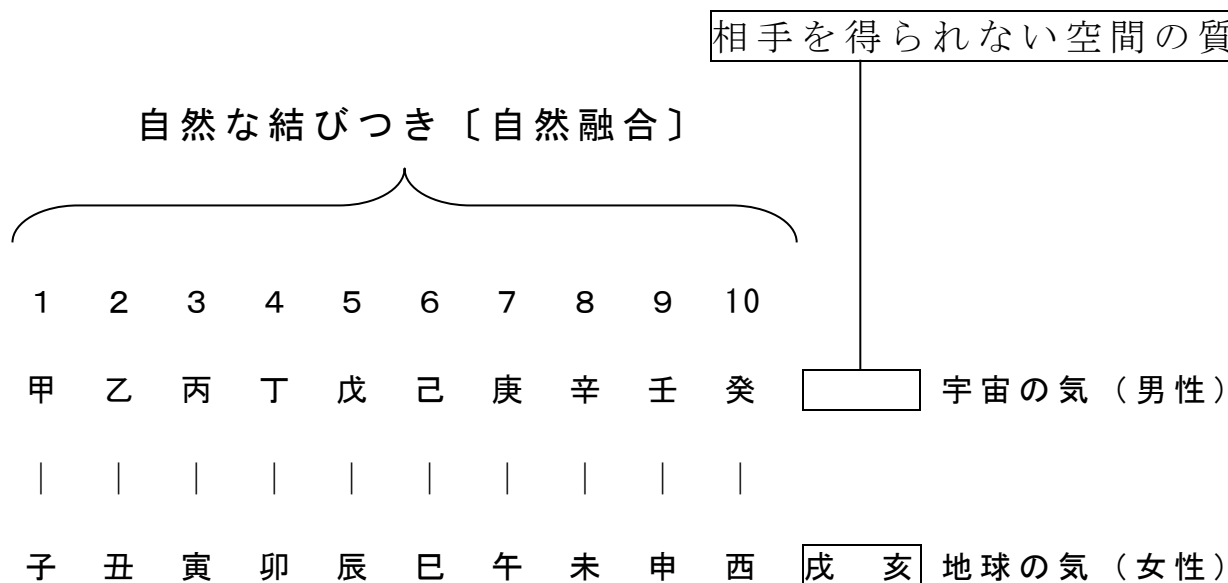
1年12ヶ月のうち、2ヶ月間です。

4 日運天中殺（にちうん てんちゅうさつ）

十二支が^{いちじゅん}一旬する12日間のなかの2日間です。

「大運」「年運」「月運」「日運」のすべてに対して……

2という数字が天中殺の範囲になります。



「甲子」から始まって「癸酉」までのグループには相手がありますが、「戌と亥」のグループは結婚できない2人ということでした。

ところが、宇宙の気「陽神」のグループはそのまま来ていますから、相手を得られないグループである 戌 と 亥 の上には、この場合「甲・乙」が載ってきます。

ここに載ってくるのは、相手を得られない空間の質 になります。

この空間の質が、天中殺に含まれる種類ということになります。

それは、**幸せ**かもしれない、**寿命**かもしれないし、**お金**かもしれない、**名誉**かもしれない、**知恵**かもしれない、これらの五種類のいずれかになります。

その五種類は〔福^{ふく}寿^{じゅ}禄^{ろく}官^{かん}印^{いん}〕の五^ご徳^{とく}です。

得られない空間の質によって、五種類のどれなのかを判断します。

そうしますと、今度……自分に周ってくる天中殺が、〔禄〕なのか、〔官〕なのか、〔印〕なのか……と、いうことになるわけです。

〔福〕幸せに問題がでるのか、〔寿〕健康に問題がでるのか、〔印〕知恵に問題がでるかのいずれかになるということです。

もしかすると、五種類にうちの四種類が全部まわるということがあり得ますし、おなじ種類が一緒にまわるということもあります。

どの種類の天中殺がまわるのかによりますが……

ご自分で、天中殺のあいだの事柄に関わる禍^{わざわい}を避^さけることができます。

方法論として、天中殺に〔禄^{ろく}〕がまわって来るのなら、お金に関して注意することです。

お金を投機的につかうことに注意するということ

もつながります。

〔たとえば〕株などの投機とかも入ります。

⇒ 「大運天中殺」「年運天中殺」「月運天中殺」「日運天中殺」
四種類の天中殺の長さは違いますが、天中殺のもつ
質そのものは、すべておなじです。

長さの違いによって、天中殺の状態が違うことはあ
ります。

しかし、大運天中殺は 20 年間で 1 番長いから大変
で、日運は 1 番短いから問題にはならないというこ
とではないのです。

大運であろうと、年運であろうと、月運であろうと
天中殺の質はおなじです。

⇒ 天中殺について具体的に考えます。

人間が生きるということは、2021 年、2022 年とい
う決められた時間の中を生きているわけです。

その時間をトンネルにたとえますと、誰もが宿命を
もっています。

天中殺の期間というのは、自分の宿命のトンネルが
切れている部分です。 🔍参考⇒つぎの頁の図

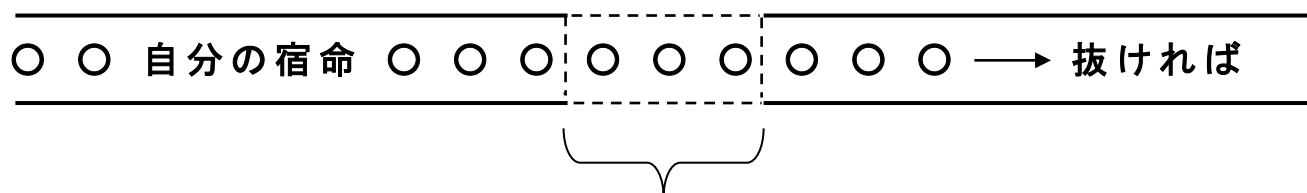
自分の宿命が、トンネルの左側から入って、点線の

部分を無事に通過して、トンネルの右側に来れば、天中殺を通過したことになります。

この空間が欠如してはいますが、時間はあるのです。時間がなくなれば死にます。

現在^{いま}、生きているということは時間があることです。

（天中殺 ⇒ 時間はあるが空間がない状態）



切れている部分は、大運天中殺は20年間、

年運天中殺2年間、月運天中殺2ヶ月間、日運天中殺2日間。

大運でも、年運でも、月運でも、日運でも、「天中殺の質はおなじ」です。期間の長さは違います。

「大運天中殺は20年間で長いから大変だわ」と、
いうのはそのとおりです。（大運天中殺の無い人もいます）
20歳～40歳の20年間の天中殺は大変です。

平均寿命を〔80歳〕とすれば……80歳のあいだの20年間ということになります。

天中殺は勢いのあるときに問題が出ますから、若い人ほど大変です。

歳を取ってくると、自分も枯れてくるし、勢いも無くなってくるので、若いときのように、大変ではないといえますけど、やはり天中殺は大変です。

⇒ そこで時間の長さに照らし合わせて考えます。

天中殺そのものの勢いがあるのは「年の天中殺」です。天中殺のなかでも「年の天中殺」は1番勢いがあります。若い時代であろうと、歳を取った時代であろうと勢いがあります。

「大運天中殺」は20年間という長期にわたる長さですから、勢いが緩むとは言い切れませんが……ダラダラと進行します。その意味で、勢いのある年の天中殺と比べれば、大変ではないと考えています。

〔20歳〕から、大運天中殺に入っている人に「結婚をするな、引越しをするな、子供はつくるな」と、いってもそうはいかないわけです。

算命学は、人間は各人平等ですが「運勢は不平等」と考えているのです。

〔20 歳〕から、20 年間の大運天中殺がまわる人もいれば、〔60 歳〕から大運天中殺がまわって来る人もいるわけですから、その意味で不平等ということ
です。

そこに算命学の真価があります。

一人一人の人間の運勢を観て、その人の固有の質を大切に
して、その人に即した占いをできるからです。

〔20 歳代〕に大運天中殺がまわって来ない人の場合は、〔20 歳代〕にまわって来る人に比べれば生き方は楽
です。

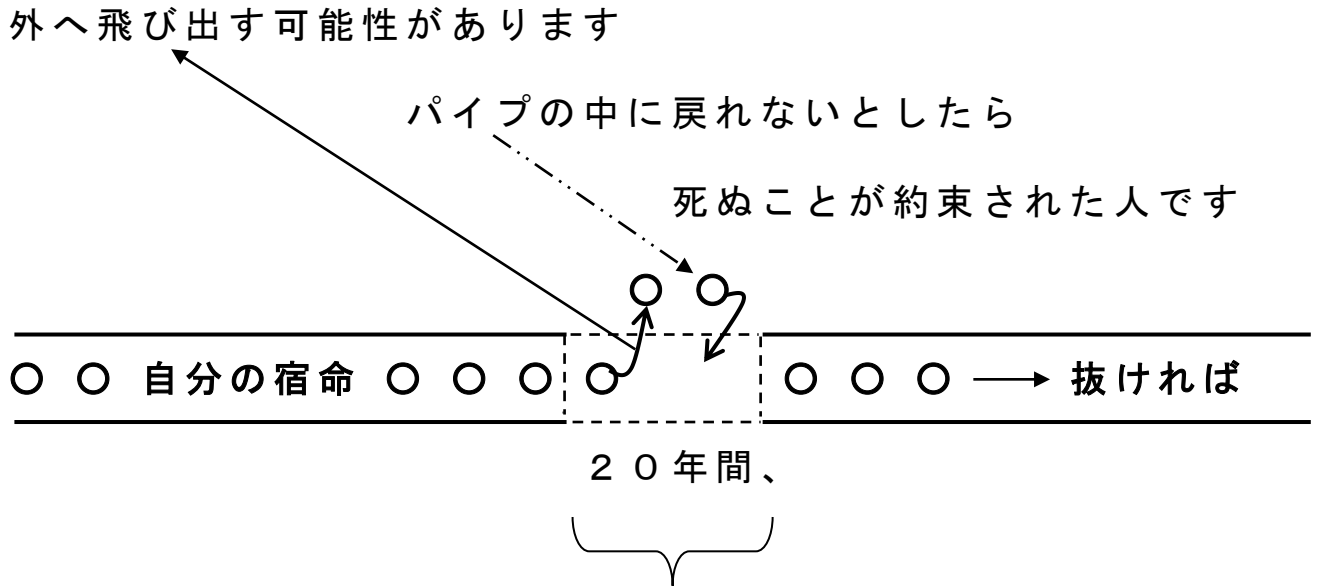
しかし、それで本人が幸せになるのか……どうかということ
は別なのです。

大運天中殺がある人が、自分の宿命のトンネルにある空間の部分をうまく通過して、つぎのトンネルに行くことができれば、むしろ大運天中殺が無い人よりも幸せになるかもしれないと
考えているのです。

☞ そうしますと、どうしてトンネルの空間の箇所が、

わざわい
禍になるのでしょうか——➡

☞ どうしてトンネルの空間の箇所が、禍わざわいになるのでしょうか――。



無い部分は、自由に宇宙遊泳できますけど、戻って来られなければ、死ぬしかないと考えています。それゆえに、天中殺のあいだは「積極的に生きるな、受け身で生きろ」といっているわけです。

算命学を勉強していない人は、自由に自分流に生きているはずです。

自由に生きることで、成功するかも知れませんが、失敗するかもしれないわけです。

いずれにしても、トンネル内に戻らなければ……

その人はこの世から、淘汰とうたされることになります。その意味で、20年間というのは大変です。

チョット踏み外すと、どこかへ行ってしまうのです。

「2年間だから大丈夫」—— 飛び出してしまうと今度は期間が短いので戻りにくいのです。

期間が長ければ飛び出しても、戻れる可能性はありますが、2年間というのは短いので、戻れないかもしれません。

その意味で、2年のあいだに、新しいことを起こしたとすれば、大運天中殺よりも、年運天中殺のほうが、^{わざわい}禍になりやすいのです。

そうしますと、月運天中殺、日運天中殺は期間が短いので、空間へ飛び出すほどの時間は無いと考えます。

2日間はあっと、いう間に過ぎてしまいます。

短いので余裕はないのですが、器用な人は飛び出してしまうかもしれません。

そうなると戻るのは大変です。

大運天中殺であろうと、ほかの3つの天中殺であろうと、すべてこのような構造になっています。

【初年】 63回目【天中殺の心得（1）】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 64回目【天中殺の心得（2）】 です。